

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホーム ほろむい二号館		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611-109 (電話) 0126-26-5673		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年10月21日	評価確定日	平成21年11月18日

【情報提供票より】 (平成 21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 18,000円 暖房費(11~3月) 7,000円
敷金	有 () 円 ・ (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,333 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89.6 歳	最低 80 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北翔会病院、牧病院、岩見沢脳神経外科他
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩見沢市郊外の幌向地区に立地し、平屋の施設中央には中庭があり、木の温もりとゆとり感のあるホームです。地域住民と交流し、隣接の系列グループホーム、デイサービスと相互の連携が、利用者の地域生活の継続と豊かな活動に反映されています。多数の医療機関との協力体制の充実が図られています。地域の祭りや外出行事、年中行事など楽しみ事も多彩で、職員の良好なチームケアを基盤として、自分らしい暮らしと安心、安全な環境作りに取り組み、利用者の穏やかな生活と家族の信頼に繋がっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	災害時対策については、夜間想定などの実践的訓練に取り組み、地域の協力体制が築かれています。他の改善課題に関しても検討し、取り組みの継続が図られています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	評価の意義や目的を理解して、職員全員が自己評価の作成に関与し、日頃のケアを振り返り、評価をサービスの質向上に繋げる方向性を持って取り組んでいます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	系列ホームと合同開催を実施しています。家族や町内会連絡協議会代表や民生委員、市担当者、包括支援センター職員の参加により、ホームの現状を始め、避難訓練、外部評価結果などを報告し、有意義な意見交換が交わされ、地域密着のホーム運営に活用されています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	隔月のホーム便りや個別の手紙を送付し、きめ細かな情報発信を行なっています。家族の来訪も多く、家族との関わりを大切にコミュニケーションを図り、意見や要望は、会議などで検討し、介護計画やホーム運営に反映されています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の諸行事や祭りに積極的に参加し、自然な近所付き合いも行なわれています。児童館の子供達との触れ合いや、運営法人主催の敬老会では地域の方々の協力もいただき、共に楽しんでいます。また介護講習会や高齢者相談など地域貢献にも努めており、地域に溶け込んだ運営が展開されています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時当初に策定されていた理念に、「近隣の人や自然とふれあい、仲間がいて・・・」の文言を追加し、地域密着型サービスの在り方を反映した理念を作り上げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、地域の中で自分らしく安心して暮らしの継続を基本とし、会議は勿論の事、日常の介護場面で具現化した伝達を行ない、職員全体が一致した認識の下、サービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営法人として、地域の方々と一緒に楽しむ行事への参加を積極的に支援しています。おすそ分けや、利用者の散歩時の語らいや見守りをさせていただくなど、日常的なお付き合いや協力、また児童館の子供達の来訪など、住民の方々に溶け込んだ地域交流が行なわれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価の作成は、職員それぞれが項目を分担し全体で取り纏めています。日常ケアの実践と照らし合わせ、評価をサービスの質向上に繋げる方向性を持って取り組んでおり、評価の意義の理解・浸透が図られています。		

岩見沢市 グループホーム ほろむい二号館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は系列ホームと合同開催し、家族や地域住民、行政関係者がメンバーとして、ホームの現状やその取り組み、防災体制、外部評価結果など報告し、サービス提供や地域密着に多様な視点からの意見、助言が活かされています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録やホーム便りの持参を始め、日頃から運営や介護業務、地域グループホーム事情などについて連携を取り、共にサービスの質向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、様々な機会を捉えて積極的に情報伝達を行なっています。ホーム便りは隔月発行し、日常の様子は写真掲載や担当職員からの手紙で報告し、状態変化時の相談や受診状況も含めて、来訪時や電話で利用者一人ひとりに合わせた報告がされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の方々とは対話を心がけ、心配事などを問いかけながら、意見や要望を話しやすい関係作りに努めています。要望などは検討し、利用者支援に活かされるよう対応しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、運営法人内の異動は最小限の方針ですが、やむを得ない交替の際には、介護業務経験者の採用のほか、引継期間や職員配置を考慮し、利用者や新人職員の信頼関係が早期に築かれるようダメージ軽減の方策を講じています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常ケアの実践での育成を主に、職員間で共に学び合う姿勢が共有されています。認知症介護研修など外部研修の参加の機会が増加傾向にあり、各種研修案内を周知し参加を促しています。研修後は資料回覧に止まっており、十分な活用に至っていません。	○	従来のOJT（実務訓練）に加えて外部研修の参加促進に継続的に取り組んできています。今後さらに職員育成に関しての内部研修の仕組みを検討し、外部研修後の報告会や現状課題をテーマにした学習会などの取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネ連絡協議会に出席し、情報交換のほか、運営者が地域の同業者とのネットワーク作りや交流促進に向け取り組んできていますが、職員レベルでの交流の実現には至っていません。	○	系列ホームとは、会議や行事など協働体制が取られていますが、周辺地域の同業者と職員間の相互訪問や勉強会など交流を進め、当ホームのみならず地域全体のサービスの質確保や水準の向上に向けた取り組みを期待します。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用開始の過程で、介護支援専門員や管理者が利用者の自宅や施設、病院の訪問、面談を重ねて、馴染んでいただく対応を取っています。さらにホーム見学やお茶の時間を一緒に過ごす事で係わりを持ちながら、利用者の心配や不安感に配慮し対応しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者自身の自然な生活スタイルに共感を持った支援に努めています。家事仕事や楽しみ事を一緒に行ない、生活の知恵を教えていただいたり、感謝や笑顔を交わし合うなど、暮らしを支援をする中で、互いに支え合う温かな関係が見受けられます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いに関心を払い、一人ひとりの対話を重視し、生活経過表や引継ぎノートに具体的な記載を心掛け、意向の把握、情報の蓄積や共有に取り組んでいます。家族とも情報の共有を図っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスで職員全員の気付きや意見交換を行ない、担当職員が作成した原案を、計画作成担当者が総合的に集約し、家族や医療関係者の意見も盛り込んだ利用者本位の具体的計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで、利用者の現状確認や検討を行ない、チームケアの共有化を図っています。介護計画は通常3ヵ月、状態の安定している利用者は6ヵ月の定期見直しを実施し、状態変化時には家族、医療関係者とも相談し、状況を見極めながら速やかに計画の変更に取り組んでいます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療受診支援や各種イベント、外出行事、買物の送迎、また多目的室を利用した家族の宿泊など、ホームの有する機能を柔軟に活用し、利用者や家族の状況、要望に応じた支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多数の医療機関との良好な連携、支援体制が確保されています。月2回の往診診療のほか、個別の通院診療、また緊急時にも24時間の対応可能な体制が整備され、適切な医療支援に繋げており、通院の介助調整も行ない家族の安心に繋がる配慮をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期のあり方について、ホームとしての方針を提示し、早い時期から利用者や家族と話し合い、同意をいただいています。状態変化に伴って、その都度家族との話し合いを繰り返し、関係者間で方針の共有に努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に対する職員の意識向上を第一とし、利用者との関係性を踏まえつつ言葉掛けや排泄、入浴介助など、プライドやプライバシーを損ねないケアの徹底に取り組んでいます。個人情報の同意を取り、情報の利用、記録の管理が適切に行なわれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはありますが、利用者一人ひとりの自分らしい暮らしを理念とし、利用者のペース、希望、心身の状態に応じた支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの一品を調理する利用者もいたり、一人ひとりの意欲や力を引き出し、食に関する作業を一緒に行なっています。食事時間は介助に専念し、和やかに会話を交わしながら、落ち着いた環境で食が進むよう支援しています。収穫した野菜やおすそ分けも食卓に上り、外食や行事食では共に食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回午後の時間帯での入浴支援ですが、限定せず柔軟な対応が可能となっています。全面的介助の入浴支援も安全に配慮し、希望を受け留めて、身体の清潔保持や満足に添う支援に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝いや掃除、手芸や折り紙、俳句など毎日の暮らし中で、過去の経験や知恵を活かし、現状の持てる力を発揮できる役割や場面を通して、利用者が満足感や充実感に繋がる支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩は日常の事として支援し、運営法人全体での季節の果物狩り、祭り見物や温泉ツアーなど外出行事が多彩に提供され、車椅子利用者も無理のない計画で、安全性に配慮しながら支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中帯は玄関、ユニット入り口は施錠されておらず、鈴などで開閉を察知していますが、外出傾向の利用者に対しても見守りの強化で対応し、一緒に出掛けさりげなく見守るなど、利用者の安全を守りつつ、自由な生活を支援しています。		

岩見沢市 グループホーム ほろむい二号館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理規定に則り、年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署の協力の下、運営法人全体として昼夜間想定や避難誘導訓練を実施しています。ホーム内では日常的に災害対応を話題にし、運営推進会議を活用して災害時における地域協力体制作りも進んでいます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営法人の栄養士が、利用者の嗜好や嚥下、身体状況に応じて栄養バランスやカロリーを考慮した献立を作成し、調理法や食材の変更、介助法など一人ひとりに対応しています。水分・食事摂取量を記録し、利用者の状態に留意した支援に活かしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植樹が施された中庭を中心に、共用空間は木の温もりがある、ゆったりとして明るく家庭的な印象です。写真や季節飾り、利用者の作品が飾られ、床暖房を利用し加湿器や空気清浄機の設置、採光調整など、利用者の生活の場としての居心地良さや安心、安全に配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は床暖房で安全性が高く、クローゼットがあり、使い易く整理された空間になっています。ベット以外の調度品や生活用品は使い慣れたものが持ち込まれ、落ち着ける居場所の工夫がされています。		

※ は、重点項目。